

# SLyDIFIで らくらくスライド作成

monaqa

GitHub: <https://github.com/monaqa>

2021 年 6 月 6 日

# 目次

---

1. セクションスライドの具体例
2.  $SL_YDIF_I$  でオーバーレイ

# 目次

---

1. セクションスライドの具体例
2.  $SL_YDIF_I$  でオーバーレイ

# セクションスライドの 具体例

具体例

セクションスライドの

# フレーム作成 in SLyDIF<sub>I</sub>

---

- ◆ フレーム：スライド資料の 1 ページ 1 ページに値するもの
- ◆ SLyDIF<sub>I</sub> では 3 種類のフレームを区別する
  - ▶ 見出し：スライド全体の題目、発表者名などを載せるフレーム
  - ▶ セクション見出し：セクションのタイトルを載せる
  - ▶ 本文：通常のフレーム

# テキストの記述

---

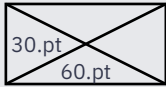
以下のようなコマンドを用いてテキストを記述できる。

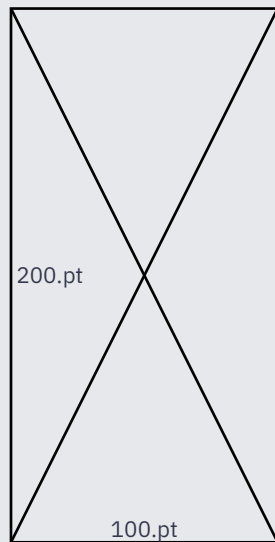
- ◆ `+p{}`: 段落
- ◆ `+listing{}`: 番号のない箇条書き
- ◆ `+enumerate{}`: 番号付きの箇条書き

さらに、インラインテキストの中では以下のマークアップが使える。

- ◆ `\emph{}`: 強調
- ◆ `\text-color(){}:` 文字色変更

# 図表の貼り付け (FigBoxモジュール)

- ◆ 例 : `+fig-center(FigBox.include-image 80pt `path/to/image.jpg`);`
  - ▶ `FigBox.include-image` : 画像 (PDF/JPEG) を指定幅で読み込む
  - ▶ `+fig-center` : 読み込んだ図を中央揃えで配置
- ◆ 様々な読み込み用の関数や配置コマンドが用意されている
  - ▶ `dummy-box` : 指定されたサイズのダミーボックス
  - ▶ `hmargin` : 水平方向に指定された量の余白を付ける
  - ▶ `vconcat` : 鉛直方向に図を結合
  - ▶ `\fig-inline` : テキスト中  に画像を出力
  - ▶ `+fig-on-right` : 画像を右に、本文を左に配置



# 目次

---

1. セクションスライドの具体例
2. **SL<sub>y</sub>DIF<sub>I</sub>** でオーバーレイ



SLYDIF<sub>I</sub>でオーバーレイ

SLYDIF<sub>I</sub>でオーバーレイ

# オーバーレイの基礎

オーバーレイは、同じスライドに対して「レイヤーを上から重ねる」かのように順々にアイテムを表示できる機能。

- ◆ 表示を一方向的に追加してだけでなく、特定の番号でのみアイテムを削除したり、書式を変更したりすることも可能。
- ◆ 「何枚目のときに表示するか否か」を表す `int -> bool` 型の関数を用いて指定する。

# オーバーレイの基礎

オーバーレイは、同じスライドに対して「レイヤーを上から重ねる」かのように順々にアイテムを表示できる機能。

- ◆ `+p?:(only 3){}` とすれば、3 枚目に限り段落が出現する。
- ◆ `\emph?:(only 2){}` とすれば、2 枚目に限り**強調**できる。
- ◆ `+ghost(from 2)<>` とすれば、2 枚目以降で出現するブロックが作れる。

# オーバーレイの基礎

オーバーレイは、同じスライドに対して「レイヤーを上から重ねる」かのように順々にアイテムを表示できる機能。

- ◆ `+p?:(only 3){}` とすれば、3 枚目に限り段落が出現する。
- ◆ `\emph?:(only 2){}` とすれば、2 枚目に限り強調できる。
- ◆ `+ghost(from 2)<>` とすれば、2 枚目以降で出現するブロックが作れる。

いくつかのコマンドはオプション引数に条件を指定して、条件を満たすときのみ表示を有効にすることができる。

# オーバーレイの例 (1/4)

---

箇条書きの要素のオーバーレイ表示。

- (1) この項目は常に表示される。
- (2) `+oitem` コマンドを用いると「今オーバーレイの何枚目か」に応じて表示を出し分けられる。この段落は 1, 2 枚目のときのみ表示される。
- (4) これは 3 枚目以外で表示される段落。

## オーバーレイの例 (2/4)

---

箇条書きの要素のオーバーレイ表示。

- (1) この項目は常に表示される。
- (2) `+oitem` コマンドを用いると「今オーバーレイの何枚目か」に応じて表示を出し分けられる。この段落は 1, 2 枚目のときのみ表示される。
- (3) これは 2, 3 枚目のときのみ表示される段落。
- (4) これは 3 枚目以外で表示される段落。

# オーバーレイの例 (3/4)

---

箇条書きの要素のオーバーレイ表示。

- (1) この項目は常に表示される。
- (3) これは 2, 3 枚目のときのみ表示される段落。

# オーバーレイの例 (4/4)

---

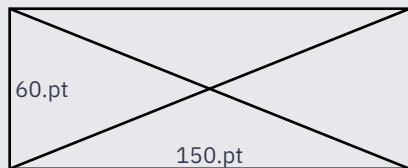
箇条書きの要素のオーバーレイ表示。

- (1) この項目は常に表示される。
- (4) これは 3 枚目以外で表示される段落。



## オーバーレイの例 2 (1/4)

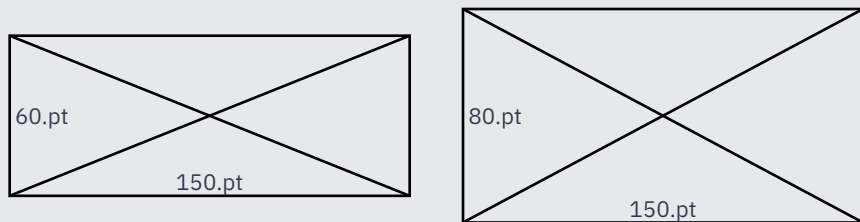
図のオーバーレイ表示も可能。



図が少しずつ大きくなっていく様子。

## オーバーレイの例 2 (2/4)

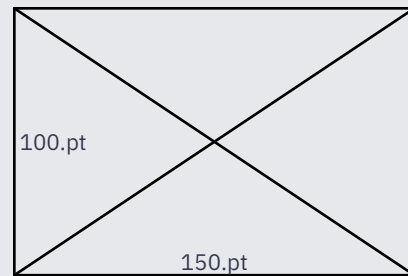
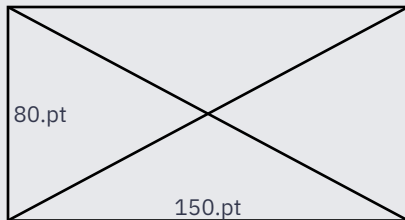
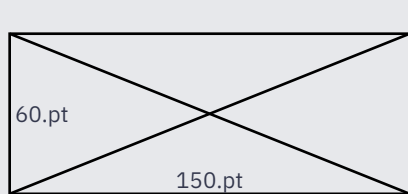
図のオーバーレイ表示も可能。



図が少しずつ大きくなっていく様子。

## オーバーレイの例 2 (3/4)

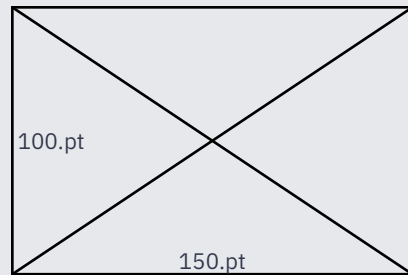
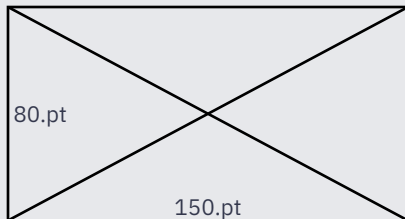
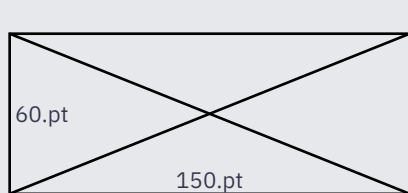
図のオーバーレイ表示も可能。



図が少しずつ大きくなっていく様子。

## オーバーレイの例 2 (4/4)

図のオーバーレイ表示も可能。



図が大きくなりきった様子。